

給水スポットの拡大による 使い捨て飲料容器の削減活動の全国展開

活動地域  日本全域

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

給水スポット登録数 **1,812件**

活動地域数 **16地域**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **75%**



夏の江の島で給水ステーションのニーズ確認

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントやお祭りが中止になり、仮設給水ステーションを使用した活動の機会が少なくなった。

■工夫した点

数少ない開催されたイベントの機会を最大限にいかすとともに、駅構内や観光地で関係者と交渉して機会を作りニーズを実証した。

課題

ペットボトルなどの使い捨て容器に入った飲料の消費の増加は、資源消費量、CO₂排出量等の環境負荷の増加につながっており、水道水や地域の水資源への関心は低い。

目標

日本の多くの地域で給水スポットが設置され、利用されることで、ペットボトル等使い捨て容器入り飲料の消費が減り、環境負荷の低減と潤いのあるまちづくりが広がること。

活動内容と成果

- 全国16地域(15都府県)で、公共及び協力店舗等の給水スポットの拡大活動を実施した
- 夏の江の島、地下鉄天満橋駅、秋の京都嵐山、かしわら芸術祭等で仮設給水ステーションを設置運営した
- 全国の地域リフィルが集まるサミットを開催、「Refillサミット2021富士山宣言」を発表した
- 「給水スポット大賞2021」として自治体のすぐれた事例を表彰した
- 短編及び英語版の活動紹介動画、給水機導入マニュアルを制作した
- 3年間の総括するシンポジウムを開催、「リフィル」をさらに広げる鍵を議論した



コロナ禍でも給水スポット参加店舗は拡大



3年間の活動を総括するシンポジウムを開催

全助成期間の活動を振り返って

日本初の給水スポットを広げるプラットフォームとしてRefill Japanが活動を開始してから3年が経過し、「給水スポット」という言葉が企業や自治体でも使われるようになった。先進的に給水スポットのまちづくりに取り組む地域も生まれ、波及効果が表れ始めている。イベントや街中での水道直結式仮設給水機の活用や、地域リフィルの地道な活動が成果を出しつつある。

〒110-0015
東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階
電話：075-211-3521 (環境市民気付)
E-mail: info@sui-do.jp
HP: http://sui-do.jp, https://www.refill-japan.org/



今後の展望

活動の対象を、無料給水だけでなく、持参容器での飲食テイクアウト、リユース容器での宅配等、より広義の「リフィル」に広げることにより、さらなるムーブメントの拡大と、環境負荷の低減をはかる予定である。また、活動地域数、マップへの登録スポット数とともに、各スポットの利用頻度を上げるために、LCA等の調査や検討会を実施し、各地での普及啓発活動にいかせるツールを用意する。